

卒業生諸君に寄せる

(平成27年度本荘高校卒業式式辞より)

鳥海山の青き峰にも、日増しに春の気配が感じられるこの佳き日に、同窓会長猪股春夫様、衆議院議員村岡俊英様、秋田県議会議員加藤紘一様をはじめ、多くのご来賓の方々の御臨席を賜り、また、保護者の皆様の御参列を得まして、平成27年度秋田県立本荘高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、まことに喜ばしく、心より感謝申し上げます。

卒業される全日制229名、定時制9名の皆さん、これまでの3年間、あるいは4年間、右文尚武、質実剛健、玲瓏同氣の本校3つの校標のもと、勉学に専念し、部活動や生徒会活動に、さらに、定時制にあってはもう一つの校標ともいえる働学一体の実現に、青春のすべてをかけ、取り組み、大きな成果を上げてきました。

その努力が認められての卒業となります。この卒業は皆さん自らの手で成し遂げた人生の中での一つの荣誉です。このことについては大いに自信と誇りを持ってください。私たち教職員一同、深甚なる敬意を表します。

その一方で、共に学び、支え合った友がいます。皆さんを守り、育ててくれた保護者の皆様をはじめ、地域の方々や、本高で出会った先生など、多くの方々の教えや励ましがありません。こうした方々への感謝の心を忘れず、これからの人生を力強く歩んでいってほしく思います。

さて、君たちが生きるこれからの時代は、高度情報化社会、少子高齢化、就業構造の転換、地方創世への対応、グローバル化の進行に伴い、世の中の流れが予想よりもはるかに早く進む、予測困難な新しい時代、といわれています。

例えば、2030年頃に、大学を卒業する人達の65%が今は存在しない職業に就くだろう。今後、10年ないし20年程度で半分近くの仕事が自動化・ロボット化されるだろう。近い将来、高校生100人の内、60人は従来の日本社会が想定していた終身雇用、年功序列型のコースを歩むが、残り40人は違った道を歩むことになるだろう、などです。

これからの社会を力強く生き抜いていくためのヒントとなることを願って、3つのこととお話し、私から皆さんへの臆と致します。

1つ目は、『学び続ける力』です。

変化し続ける社会には、日々学び続けることで対応力を磨いていかなければなりません。どうか生涯にわたって、学ぶ心を忘れず、絶えず知性を磨き、社会のために、力を尽くしてもらいたいと思います。

『学はもって已むべからず』

これは、中国の思想家、荀子の言葉です。

「君子いわく、学はもって已(や)むべからず 青はこれを藍より取りて、

藍よりも青く 氷は水、これをなして、水よりもつめたし」

と続きますが、これは、学問は途中でやめないで継続しないとイケない。

青色に染める染料の青は、藍という草からできるものだが、藍よりも青く、氷は、水からできたものだが、水よりも冷たい。このように、学問を継続して昨日より今日、今日より明日と日々成長し続けていかなければならない、という意味です。

『学はもって已むべからず』

これから訪れるであろう変化の時代において、生き残っていくのは、学び続ける人間であることを忘れないでください。

2つ目は、『言葉に責任を持つ』ということです。これは、言葉に心を添える、と言い換えることもできます。

皆さんが発するどんな言葉にも名前が記されていることをまず自覚してください。

今、ラインやメール、ネットなどで好ましくないことが生じているのは、名前を隠した言葉、責任の伴っていない言葉が発せられているからです。

これからの社会では、チームの一員として、時にはフォロワー、時にはリーダーとしての役割を全うしながら協働していかなければなりません。この意味でも言葉、コミュニケーションは一層重要なものとなります。

従って、自分が発する言葉には責任を持ち、いつも自分の真摯な心を添えて発しなればなりません。

同時に、他者の言葉にも、耳を傾けてほしい。この世の中は、すばらしい言葉、や表現、考えに満ちあふれています。

皆さんには、いつも言葉には心を添えて発し、相手の言葉は、心を正しくして聞くことをお願いします。

3つ目は、『自分のセーフティネットを持つこと』です。

セーフティネットとは、困難な問題が起こったときに相談できる人や場所、機関のことをいいます。困ったことが生じたときに、その解決のためにどう動けばよいのかを分かっているほしい、ということです。

また、セーフティネットの最後の砦は、自分自身です。それが、レジリエンスと呼ばれるものです。

最新の心理学や人材育成のプロの間では、従来の強さ、タフネスよりも、しなやかな回復力が重要といわれています。これがレジリエンスです(元々は物理学の用語で、外力による歪みを跳ね返す力、弾力を意味しています)。

レジリエンス(Resilience)とは、鋼のような強さではなく、やなぎのようにしなやかで決して折れない強さのことであり、失敗や挫折をしても、むしろその経験を糧にして成長する回復力(Reaction to Setbacks)のことです。

このレジリエンスという考え方は、とても「日本人的な強さ」であるといわれています。甚大な被害をもたらした東日本大震災では、諦めることなく黙々と取り組むことで、脅威的かつ迅速に震災復興を成し遂げました。その姿に、世界中の人々は「なんてレジリエンスの高い国民なのだろう」と尊敬の念を持ったといえます。

戦後の、奇跡のような復興・経済成長もレジリエンスの高い国民性だったからなのかもしれません。

そうであればこそ、自分のしなり強さを信じ、しなやかにたくましく生きていてほしいものです。

本荘高校で過ごしたこれまでの日々、そこで感じた喜びや苦しみ、悩み、楽しみの一つ一つまでもが、セーフティネットになってくれれば、それはとてもありがたいことです。

卒業式とは物事の終わりではなく、次のステップへの学びはじめ、新たな出発点です。この出発点の本荘高校であったことに、自信と誇りを持ち、『学はもって已むべからず』を胸に、学び続けてください。そして変化し続けることです。

また、自分の名前において言葉を語り、良心において言葉を聞いてください。

そして、しなやかで折れない心、レジリエンスをもって、新たな道を歩き始めてください。

最後になりますが、保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。この日まで、長きにわたってお子様を、陰に日向に支え、励ましてくださいました保護者の皆様には、深い敬意を表します。このように、立派に御成長されましたこどもの姿に感慨もひとしおのことと拝察します。これまで本校に賜りましたご理解と御協力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも、本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様共々、お力添えをお願いする次第です。

それでは、卒業生の皆さん、皆さんの末永いご多幸を心から祈りつつ、式辞といたします。

(完)